

平成25年「地域防災学習交流会（後期）」コース内容

	時間	コース	講義タイトル
開会	10分		<ul style="list-style-type: none"> ・会の進行説明 ・東京消防庁からのお知らせ まちかど防災訓練について
学習会	50分	A コース	<p>「首都直下地震の備えと地域防災力の向上」</p> <p>東京都の首都直下地震が起きた場合の被害想定の結果を踏まえて、個々人が備えるべき自助の内容、ならびに地域の共助の体制について、日本人の災害観である諦観（ていかん）や自然への順応といった負の態度を打ち破るため、「生活継続防備」という新しい視点を提唱します。</p>
		B コース	<p>「集合住宅（マンション等）の防災対策」</p> <p>集合住宅（マンション等）の防災対策について、居住者が共同で対処すべき課題を整理し、その解決のために必要な組織の仕組みづくり、平時の定常的活動や居住者の防災対策支援、交流イベントや発災型応急対応訓練など、特にソフト面の対策について、先進的な集合住宅（マンション等）の自主防災組織の活動事例を踏まえて、提案します。</p>
		C コース	<p>「避難所運営の手順と方法」</p> <p>自治会、町内会、管理組合等が主体となった避難所運営の手順を確認しながら、行政との協働の観点を含めて、地域の防災資源である人材、物資、空間、情報の取り扱いを解説します。</p>
		D コース	<p>「住民による地震火災対策」</p> <p>地震火災の発生・拡大のメカニズムを学習し、これによる被害を軽減するための住民レベルの防災対策について解説します。具体的には、住民による火災防備対策、初期消火対策を検討するとともに、燃え広がらない街づくりを実現するための住民協力について検討します。</p>
		E コース	<p>「災害時要援護者への対策」</p> <p>東京消防庁が4月に発表した災害時要支援者のための「地震から命を守る『7つの問いかけ』」に基づいて、要支援者だけではなく、支援をする人にも必要な準備や心構えを解説します。</p>
		F コース	<p>「地域の危険を知って始める防災活動 —防災マップ（ハザードマップ）の作成とその活用—」</p> <p>地域の防災活動は、まず自分の住む街にどんな危険があるかを知るところから始めなければなりません。本講義ではそのための「まち歩き」の準備と要点を解説して、いかに「防災の目」を養うか、またその結果をどのように「防災マップ」としてまとめるかを、事例を示しながら説明します。出来上がった防災マップの活用方法も解説します。</p>
		G コース	<p>「安否確認の進め方」</p> <p>災害発生後、まず必要になる対応の一つが「安否確認」です。本講義では、防災関連機関が進める安否確認業務ではなく、地域が主体で進める安否確認について、事例を基に進め方のポイントを解説します。</p>
交流会	約30分		<p>「質疑応答や意見交換」</p> <p>フリーディスカッションのほか、専用シートを使った問題の洗い出し形式、グループワークによる討論形式、ゲーム演習形式など、テーマに応じ様々な形で「地域防災対策のきっかけ」となる場を設けます。</p>

●講師の紹介

梶 秀樹氏（筑波大学名誉教授）

藤岡 正樹氏（東京工業大学都市地震工学センター研究員）

高梨 義也氏（地域防災アドバイザー、防災士）

三平 洵 氏（地域防災アドバイザー、株式会社イオタ代表取締役）

※上記以外にも多数の講師がいます。（講師の希望には応じかねますのでご了承ください）